

算命学中庸

【初年】 5 5 回目

5 5 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺論】 (1)

【初年】 5 5 回目【天中殺論(1)】 序論 01

□ 序論 (じょろん)

「天中殺は悪いこと」そのようにおもっている人達が多いようですが、全ての天中殺について [良いとか] [悪いとか] 論ずることはできないのです。

「天中殺」は個人の宿命に、^{こうてんうん}後天運でまわってくる
^{こうてんうんてんちゅうさつ}後天運天中殺、そして生まれながらに天中殺を宿命
のなかにもっている「宿命^{しゅくめいちゅうさつ}中殺」があります。

☞ こうてんうんてんちゅうさつ 後天運天中殺のことを、通常は「こうてんてんちゅうさつ後天天中殺」と短縮していいいます。

☞ しゅくめいちゅうさつ 宿命 中殺は下記のようにいくつもあります。

せいねんちゅうさつ 「生年中殺」 せいげつちゅうさつ 「生月中殺」 せいじつちゅうさつ 「生日中殺」
しゅくめいちゅうさつ 「宿命二 中殺」 しゅくめいさんちゅうさつ 「宿命三 中殺 (宿命全 中殺)」
ごかんちゅうさつ 「互換 中殺」 どういつちゅうさつ 「同一 中殺」 そうごちゅうさつ 「相互 中殺」 にちざちゅうさつ 「日座 中殺」

☞ 後天天中殺のなかでも、①②③は、誰にでも必ずまわって来ます。

① 1 2 年間のなかで〔2 年間〕の天中殺がまわってきます。

② 1 年間のなかで〔2 ヶ月間〕の天中殺がまわってきます。

③ 1 ヶ月のなかにも〔すうじつ数日〕天中殺がまわってきます。

④ 「後天天中殺」のなかに「たいうんてんちゅうさつ大運天中殺」という名称の 20 年間の天中殺があります。

人間一生のなかで、天中殺が 20 年間まわって来ます。

〔たとえば〕人生を〔80 歳〕と仮定すれば、80 年間の人生のどこかの年代に、天中殺が 20 年間まわって来ます。

「大運天中殺」は〔まわって来る人〕と〔来ない人〕がいます。大運天中殺も、良いとか、悪いとか、論ずることはできません。

⑤ 天中殺を生まれながらにもっている宿命があります。

生まれたときから、自分の宿命のなかに天中殺をもっているのです。

そのような宿命を「宿命_中殺」といいます。

「宿命_中殺」は〔もっている人〕〔もっていない人〕がいます。

02 頁に記載した宿命_中殺は、それぞれ特徴をもっています。

それぞれに特徴はありますが〔良いとか〕〔悪いとか〕を論ずることはできません。

☞ 【天中殺論(1)】の授業は、天中殺の概論^{がいろん}をご説明していきます。

参考・概論〔全体にわたって大要を述べたもの〕

＊ 美空 ひばり 1937_(s12)-5-29 1989-6-24 [52 歳没]

	日干支	月干支	年干支			大運
	丙	乙	丁		石門星	3 丙午
子 丑 天中殺	辰	巳	丑	鳳閣星	天胡星	13 丁未
	乙	戊	癸	貫索星	調舒星	23 戊申
	癸	庚	辛	天南星	天祿星	33 己酉
	戊	丙	己			43 庚戌
						53 辛亥

生年中殺範圍 実線の枠内はすべて子丑天中殺

＊ 貴乃花・光司 1972_(s47)-8-12

大運は9歳運の順まわり

	日干支	月干支	年干支			大運天中殺	大運
	乙	戊	壬		玉堂星		9 己酉
申 酉 天中殺	亥	申	子	石門星	天胡星	19 庚戌	
		戊		司祿星	龍高星	29 辛亥	
	甲	壬		天極星	天報星	39 壬子	
	壬	庚	癸			49 癸丑	
						59 甲寅	

生月中殺範圍 実線の枠内はすべて申酉天中殺

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子丑	寅卯	辰巳	午未	申酉	戌亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

子丑天中殺範囲

申酉天中殺範囲

美空ひばりの日干支は「丙辰 53」ですから⇒「子丑天中殺」です。

貴乃花・光司の日干支「乙亥 12」ですから⇒「申酉天中殺」です。

🔍 04 ページに〔美空ひばり〕と〔貴乃花・光司〕の宿命が記載されています。

お二人は生まれたときから、天中殺を自分の宿命のなかにもっています。つまり、宿命しゆくめいちゆうさつ中殺をもっています。

美空ひばりの宿命しゆくめいちゆうさつ中殺は「生年中殺 せいねんちゆうさつ」です。

貴乃花の宿命しゆくめいちゆうさつ中殺は「生月中殺 せいげつちゆうさつ」です。

重ねて申しあげます⇒宿命しゆくめいちゆうさつ中殺をもっているから〔良いとか〕〔悪いとか〕はないのです。その宿命の特徴といえますので、鑑定するときに見落としてはいけません。

重ねて申しあげます⇒宿命しゆくめいちゆうさつ中殺をもっているから〔良いとか〕〔悪いとか〕はないのです。その宿命の特徴といえますので、鑑定するときに見落としてはいけません。

☞ 個人の天中殺は「日干支」でわかります。

美空ひばりの日干支は「丙辰 へいかのたつど」ですから、04 頁の **天中殺表** で「丙辰」の干支をさがします。

丙辰 53 は子丑天中殺ね うしてんちゅうさつの行ぎょうにあります。 **丙辰の干支番号は 53**

貴乃花の日干支は「乙亥 おつぼくのいすい」ですから、04 頁の **天中殺表** で「乙亥」の干支をさがします。

乙亥 12 は申酉天中殺さるとりてんちゅうさつの行ぎょうにあります。 **乙亥の干支番号は 12**

☞ 後天運こうてんうんの年ねんの天中殺てんちゅうさつは、誰にでも 2 年間まわってきます。12 年間のなかで〔2 年間〕回るのを「年天中殺ねんてんちゅうさつ」といいます。〔宿命中殺をもっている〕〔もっていない〕に関係なく、年天中殺ねんてんちゅうさつは誰にでもまわってきます。

〔たとえば〕「子丑天中殺」の人であれば、2020 年（令 2）と 2021 年（令 3）の 2 年間は子丑天中殺としの年です。

2020 年（令和 2）の干支は「庚子」
2021 年（令和 3）の干支は「辛丑」 } 子丑天中殺
2年間の年天中殺

2022 年（令和 4）の干支は「壬寅」
2023 年（令和 5）の干支は「癸卯」 } 寅卯天中殺
2年間の年天中殺

大運に天中殺がまわってくれば、陰陽で 20 年間の

たいうんてんちゆうさつ

大運天中殺になります。 大運天中殺は〔まわって来る人〕

と〔まわって来ない人〕がいます。それは宿命によります。

☞ 天中殺が〔良いとか、悪いとか、論ずることはできません〕と書きました。

そうしますと、天中殺とはどういうことを意味するのか……それを理解していただくことが重要です。

天中殺がまわれれば、その人のうんせい運勢に関係してきます。陰占の世界は「運勢」を観ます。

実際に天中殺の年としがくると、きび厳しいことになる人もおられます。それは仕方がないのです。

“天中殺だから仕方がない”といえますけど、天中殺は必要なことだと算命学は考えています。

万物には「たんじょう誕生（生）と しょうめつ消滅（死）」があります。

しよぎょうむじょう

諸行無常が自然界の姿です。

てんたい

天体もそうであると考えています。

自然界の生物、人間も含まれますが、それらの生物に限ったことではなくて、会社もそうです。

会社・組織も、いつか“滅^{めつ}する”ときが来ます。

政府、あるいは、国も、民族もおなじです。

そして……もし天中殺がなければ、人類は、成り立たないと考えているのです。

それは陰陽論で、(+) (−) (+) (−) の陰陽の並びで、連続性が出てきます。とまなびました。

私たちの呼吸が正常に働いているときは、昼も夜も、規則正しく、整然と連続性を保ってくれています。

生きるものがいれば、死ぬものもいて、連続性が保たれているのが自然界です。

☞ どのような事象であっても、交互に並ぶと考えたときに、算命学でもちいる「六十干支」にも陰陽があり、誕生と消滅が存在していると考えているのです。

「六十干支」のなかにも、誕生と消滅、陰陽の連続性があります。

言葉を替えれば、誕生は整然（連続性）、消滅は不整然（不連続）ともいえるでしょう。

「誕生は整然」連続

「消滅は不整然」不連続

「六十干支」のなかには、「生と死」の理念りねんが含まれているとしています。

そこで古代の賢者けんじゃたち達は……六十干支のなかにおいて、
〔陰陽が整然と連続している部分〕と〔不整然で不連続になっている部分〕を探しだしたわけです。

この不整然な“ひずみ”の部分を「天中殺」と称したのです。

参考・理念〔理論的認識の対象にならないものも含まれているが、
絶対的実在を意味する言葉〕

六十干支表

壬	子	49	庚	子	37	戊	子	25	丙	子	13	甲	子	1
癸	丑	50	辛	丑	38	己	丑	26	丁	丑	14	乙	丑	2
甲	寅	51	壬	寅	39	庚	寅	27	戊	寅	15	丙	寅	3
乙	卯	52	癸	卯	40	辛	卯	28	己	卯	16	丁	卯	4
丙	辰	53	甲	辰	41	壬	辰	29	庚	辰	17	戊	辰	5
丁	巳	54	乙	巳	42	癸	巳	30	辛	巳	18	己	巳	6
戊	午	55	丙	午	43	甲	午	31	壬	午	19	庚	午	7
己	未	56	丁	未	44	乙	未	32	癸	未	20	辛	未	8
庚	申	57	戊	申	45	丙	申	33	甲	申	21	壬	申	9
辛	酉	58	己	酉	46	丁	酉	34	乙	酉	22	癸	酉	10
壬	戌	59	庚	戌	47	戊	戌	35	丙	戌	23	甲	戌	11
癸	亥	60	辛	亥	48	己	亥	36	丁	亥	24	乙	亥	12
水 行			金 行			土 行			火 行			木 行		

六十干支表を見るとおわかりのように、六十干支は、「十干を陽」（十二支を陰）としています。

1 番初めの干支は「甲子 こうぼくのねすい」です。

十干は「甲木＝陽」で、十二支は（子水＝陽）で1セットになっています。

2 番「乙丑 おつぼくのうしど」という干支です。

十干は「乙木＝陰」で、十二支は（丑土＝陰）で1セットになっています。

つまり、1番の「甲」と2番の「乙」は、陽と陰は対等であるとして、結びついてつくられています。

「甲」と「乙」の陰陽は対等である

3番「丙寅 へいかのとらぼく」という干支です。

十干は「丙火＝陽」で、十二支は（寅木＝陽）で1セットになっています。

4番の「丁卯 ていかのうぼく」という干支です。

十干は「丁火＝陰」で、十二支は（卯木＝陰）で1セットになっています。

3番の「丙」と4番の「丁」の陽と陰は対等であるとして……結びついてつくられています。

「丙」と「丁」の陰陽は対等である

☞ どういう意味で対等なのか？

私たちが生存している世界は……、

「空間だけでは存在できない」

「時間だけでも存在できない」

それを陰陽にたとえて、陰があつてこそ、陽があり、陽があつてこそ、陰があるとしたのです。

その意味で対等だと考えました。

「空間だけでは存在できない」、「時間だけでも存在できない」、ゆえに「甲」と「乙」は対等である。

☞ そして、お気づきのように――、

1 番の「甲」は、陽の干です。

そして（子）は、陽の十二支です。

つまり、「甲子」という干支は、「陽干」と「陽支」の組み合わせになっています。

2 番の「乙」は陰の干です。

そして（丑）は陰の十二支です。

「乙丑」という干支は、「陰干」と「陰支」の組み合わせになっています。

「六十干支」はすべて……。

「陽干」と（陽支）

「陰干」と（陰支）

この組み合わせで、干支がつくられています。

🔍 参照⇒【初年】9回目【六十干支】

☞ 十二支は（子＝陽）（丑＝陰）（寅＝陽）（卯＝陰）
このように、（＋）（－）（＋）（－）（＋）……という
順番で続いています。

つぎの頁【十二支と陰陽】図 B を参照ください ➡

🔍 参照【初年】 8 回目 【十二支と陰陽論】 02

【十二支と陰陽】 図 B

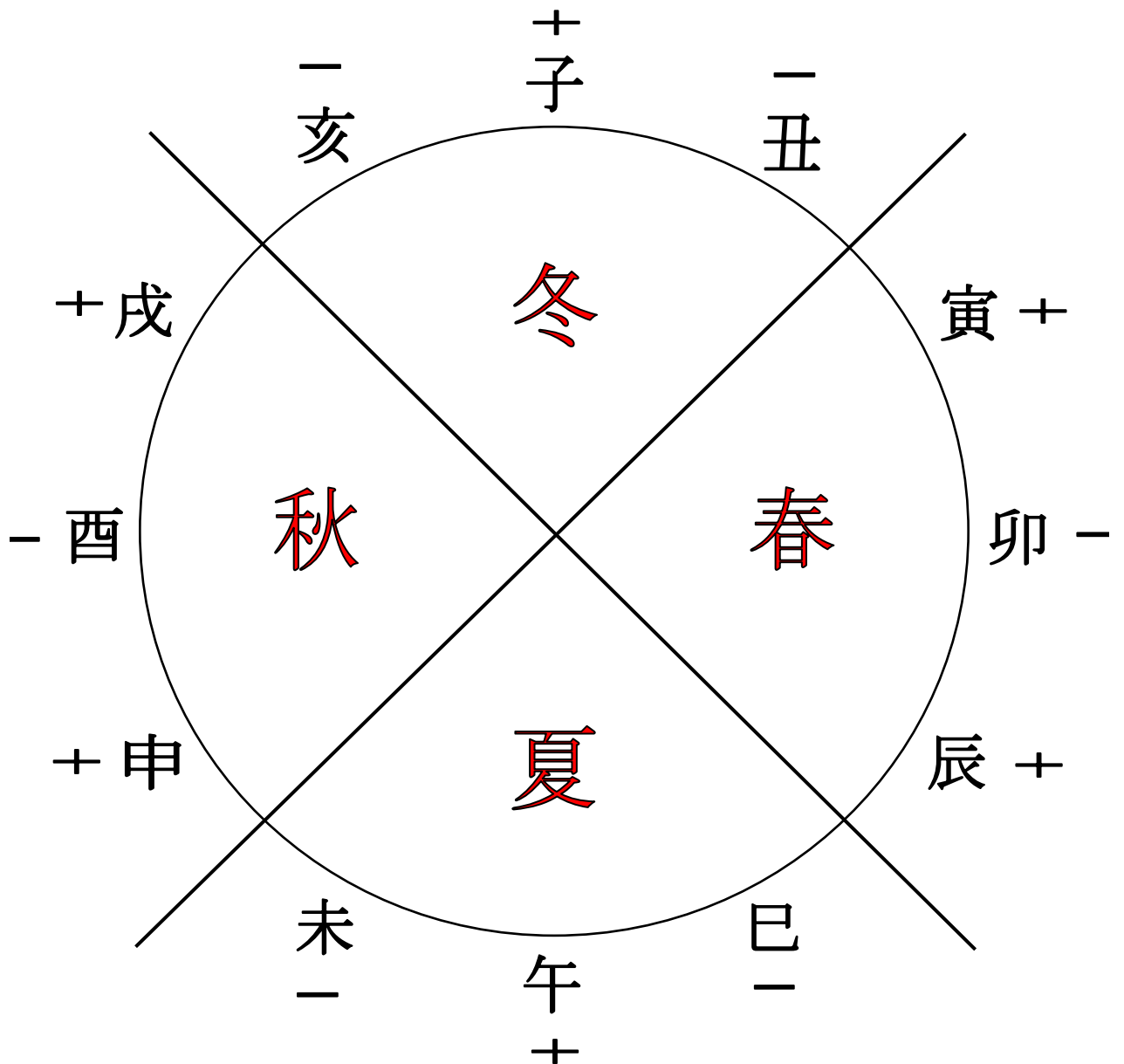
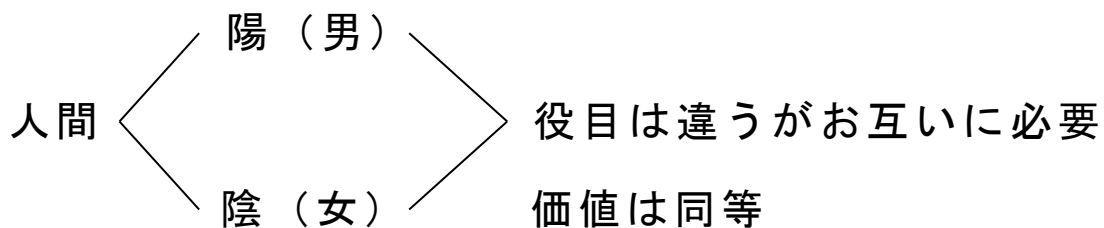


図 B じゆにしばん 十二支盤 には、季節と十二支、そして、陰陽が配置されています。

「空間だけでは存在できない」、「時間だけでも存在できない」、ゆえに「甲」と「乙」は対等である。

人間でいえば「男を陽」「女を陰」としていますが、どちらか一方だけでは存続できないということです。役目の違いはあっても、お互いに必要です。その意味で価値は同等としています。

男と女の役目は異なりますが価値は同等です。



「十干」と（十二支）も役目は違います。価値は同等です。

そうでないと、この世は存在できないと考えています。

『ひずみ』⇒自動車のハンドルには『遊びの領域』が必要です。

そこで、十干（10個の記号）と、十二支（12個の記号）を対等と考えて、結びつけていくと、十二支のほうは必ず、2つ余ってしまいます。

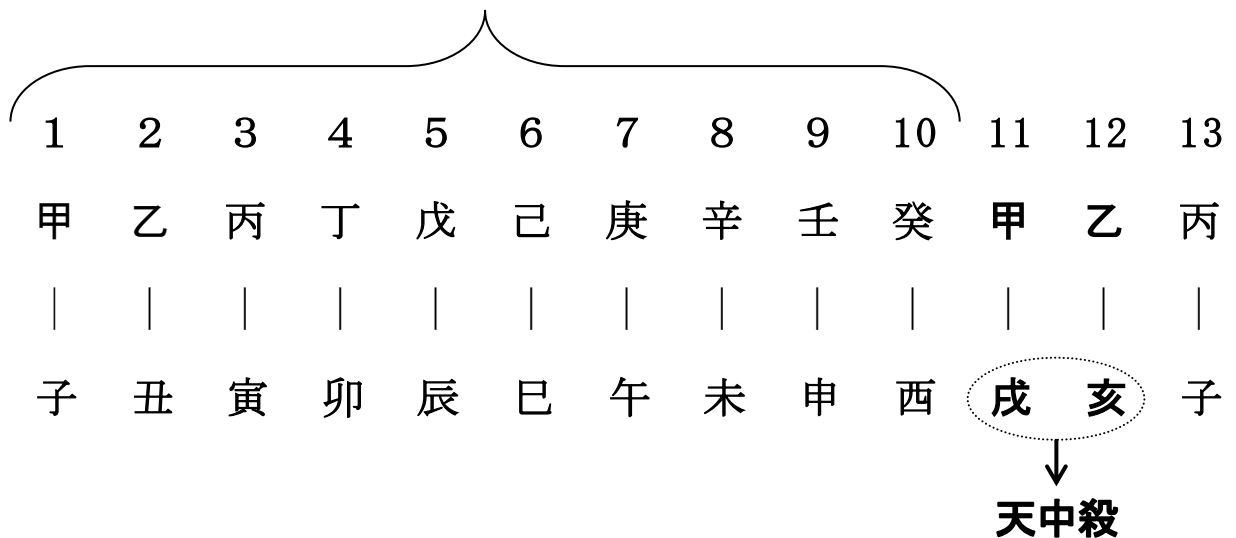
そうなると、空間と時間は対等であるとする考えは、成り立たないことになります。

陽と陰は対等だとする考えのなかで、十二支（陰）に対して、十干（陽）のほうは、2つの記号を重複してつかっているのです。

この場合につかわれている記号は「甲」と「乙」ですから、空間と時間は対等であるとする考えは成り立たないことになります。「甲木」と「乙木」にとっては、一人二役をこなしていることになります。

この部分は不自然な結びつき、不自然融合が存在するとして、その部分は『ひずみ』がある、「天中殺」があるとしたのです。

自然な結びつき



天中殺範囲（不自然融合・ひずみ）

天中殺範囲は余った十二支の**戌亥**のところでは

六十干支の干支番号「甲子 1」～「丙子 13」まで、記載しましたが、この「十干」と（十二支）の連続性を見てわかるように、「甲子 1」から「丙子 10」までは、自然（整然）な結びつきです。

戊と亥は不自然な結びつき、ということになります。

〔たとえば〕日干支「戊辰 5」の人がいたとします。「戊辰」は本人の場所です。

5
戊 ○ ○
辰 ○ ○

本人の場所（自然な部分＝整然な部分）

日干支「戊辰」は本人の場所であり、本人がこの世に生まれてきたのは、整然な部分（自然な部分）であると考えています。

この世に誕生したのは自然なことですから「日干支」は自分自身であり、自然だと考えています。

この世に誕生できたのは、自然なことである。

それゆえ「日干支」は自分であり自然である。

〔たとえば〕日干支が「庚子こうきんのねすい」で干支番号37の人物は、「六十干支」のなかでは辰と巳の範囲が不自然融合になります。

それを「たつみてんちゅうさつ辰巳天中殺」(辰巳の場所が不自然融合)と名付けました。

六十干支表

壬	子	49	庚	子	37	戊	子	25	丙	子	13	甲	子	1
癸	丑	50	辛	丑	38	己	丑	26	丁	丑	14	乙	丑	2
甲	寅	51	壬	寅	39	庚	寅	27	戊	寅	15	丙	寅	3
乙	卯	52	癸	卯	40	辛	卯	28	己	卯	16	丁	卯	4
丙	辰	53	甲	辰	41	壬	辰	29	庚	辰	17	戊	辰	5
丁	巳	54	乙	巳	42	癸	巳	30	辛	巳	18	己	巳	6
戊	午	55	丙	午	43	甲	午	31	壬	午	19	庚	午	7
己	未	56	丁	未	44	乙	未	32	癸	未	20	辛	未	8
庚	申	57	戊	申	45	丙	申	33	甲	申	21	壬	申	9
辛	酉	58	己	酉	46	丁	酉	34	乙	酉	22	癸	酉	10
壬	戌	59	庚	戌	47	戊	戌	35	丙	戌	23	甲	戌	11
癸	亥	60	辛	亥	48	己	亥	36	丁	亥	24	乙	亥	12
水行			金行			土行			火行			木行		

天中殺範囲 「甲午 31」

甲木の「甲午 31」から数えて、つぎは「乙未 32」「丙申 33」「丁酉 34」「戊戌 35」「己亥 36」「庚子 37」「辛丑 38」……「壬寅 39」「癸卯 40」「甲辰 41」「乙巳 42」になります。

つまり「甲午 31」～「癸卯 40」までが、10個の干支ですから、**甲辰 41** と **乙巳 42** は余分になります。

それゆえに、余った**辰** と **巳** が天中殺範囲になります。

天中殺を具体的にいえば……天中殺とは〔不自然〕・〔不整然〕で、消滅をあらわして、死さえもあります。

その意味で**きび**しいです。

天中殺は、不自然・不整然で、消滅を現し、死さえある。

参考・具体的〔実体的・個別的なさま〕

☞ “天中殺の過ごし方” ……どのように過ごせば良いのかということです。

天中殺になったからといって、運勢が全て落ちるということは考えないことです。

天中殺で大成功する人は多いのです。

野球の「野茂投手」は20年間の大運たいうんてんちゅうさつ天中殺で、米国の大リーガーへ移籍して、一時期はとても運勢が伸びました。

反対に、とても運勢が落ちる人もいます。

天中殺は占学用語で——不自然融合(対等でない干支の結びつきから生まれた) という意味があります。

つまり、天中殺のときは……自分にとっての不自然・不完全ですから、予期しない異常現象が起きます。

天中殺のときは、自分にとって不自然・不完全なので、
予期しない異常現象が起きる。

天中殺のときに、なにか新しい物事を始めると——、
天中殺現象が起きるということです。

天中殺を自分の宿命にすでにもっている宿命しゆくめいちゆうさつ中殺が
ありますし、後天的こうてんてきにまわって来る天中殺もあるわけ
です。

「宿命しゆくめいちゆうさつ中殺」も後天的な天中殺も、基本的な意味合い
は変わりませんが、その内容は異なります。

☞ 算命学で天中殺を説明するとき、つぎのように
表現する場合があります。

天中殺は「運勢が寝ているときですよ」といいます。

運勢を「静」と「動」でいえば「運勢が毎年、毎年、起きて
いることもない」「運勢は1年中起きていることはない」
このように考えているのです。

「天中殺は運勢が休止しているとき」です。

人間にしても、1日のなかで「昼は活動して、夜は静かに眠る」という状態があります。

「休む・眠る」そのような状態が運勢のうえでも起こります。

そういう状態のときは、〔運勢が寝ているときである〕

〔運勢が休んでいるときである〕それが天中殺である。としたのです。ようするに、運勢が寝ています。

そうしますと、運勢が眠っているような状態のときに、なにかの物事を起こしても、それは……まるで夢のなかで物事を起こしたのとおなじなわけです。

「夢から覚めれば、その現象も終わりになりますよ」

「夢が覚めれば、壊れてしまいますよ」と、そのように表現しています。

天中殺にどんな現象が起こるかといえは、さまざまな現象が起きますので……端的にこれだと決めつけることはできません。いくつかを^{れっきよ}列挙します。 ➡

参考・表現〔内面的・精神的なものを外面的・感性的にあらわす〕

参考・端的〔まのあたりに明白なさま〕

参考・現象〔観察されうるあらゆる事実〕

☞ [たとえば] 天中殺で結婚したとします。

「その結婚の姿が不完全で異常な現象になります」といえるのです。

そこでどのような現象になるのかということですが、いくつか考えますと「離婚」も起こります。

離婚

天中殺で始めたことは、完全に果すことはできないわけです。[まっとうすることはできない]と考えるのが定法です。

[天中殺で始めたことは全^{まっとう}うすることはできない]という意味からして、夫婦が婚姻^{こんいん}を解消することになるともいえます。

あるいは、生き別れ、死別という状況もあります。

[このことは、相手が死んでも、自分が死んでも、結婚を成し遂げることを出来なかったという意味からです]

参考・全^{まっとう}う [最後までなしとげる。見事に成し遂げる]

子供

天中殺の現象が子供にでることがあります。

結婚する大きな要因のひとつとして、自分たちの未来を子供・子孫へ繋^{つな}げるということです。

ゆえに、結婚すれば子供が誕生すると話が横たわって

います。その意味では天中殺の禍が子供にでることがあります。

〔たとえば〕「子供が生まれない」ということもそのひとつです。

算命学は子供が生まれないというのは、不完全な結婚と位置づけています。

あるいは、「子供は丈夫に育ちました。でも、子供はみんな出て行ってしまった」ということも起ります。この意味は……その子供たちは、親に関係なく生きて行くということなのです。

しかし、昨今は昔とは異なり、長男が必ずしも家を継ぐとか、親の面倒を看るとかではではないわけです。ゆえに、宿命を観て判断します。

「子供の育ちが悪い」ということもあります。

端的に言えば、一人前に育たないということです。

これはかなり多いです。(正常な成人に育たない)

それが精神的にできれば非行に走ります。登校拒否も入ります。登校拒否は精神的な欠陥と考えています。

社会に適応できないことであり、一人前になれないという現象なわけです。

自殺は精神病と位置づけています。

あるいは、肉体に禍わざわいが出れば、身障者、病弱ということも考えられます。

☞ これから申し上げる表現が適切とはいえませんが……、
算命学の勉強ということで考えて頂きたいのです。

世の中の役に立たない子供が生まれるということは、結婚としては、不完全な状態、不自然な姿であるとして、前記したようなことがいえるわけです。

あるいは、「子供が死ぬ」という話もあります。

これはあくまでも天中殺に関しての勉強の話です。

天中殺にはこのような現象が起きる可能性があります。ということなのです。「子供が死んでもいい」と言っているではありません。誤解をしないでくださいね。

夫婦のどちらかが病弱

夫婦のどちらかが病弱、これは両方ということもあります。病弱だけではなくて、怪我けがも含まれます。事故などで半身付随になってしまった。ということもあり得るわけです。そのようになると、〔夫としての役目〕〔妻としての役目〕〔親としての役目〕を果たせないということも起こるわけです。

夫婦の別居状態

夫婦の別居状態は、単身赴任、遠洋漁業で夫がいない状態です。

これは仲の良い夫婦でも、仲が悪い夫婦であっても、単身赴任の状態は別居状態であると考えてください。

不倫

不倫というのは、夫婦としての入籍をしていますが、自分の夫や妻より、もっと好きな人がいるという場合のことです。結婚した相手より、もっと好きな人がほかにいるということです。

「たまたま浮気した」というのは入っていません。その回数はわかりませんが、度重なるという場合は、不倫に入ると考えています。

不倫は、なにかしらの不満に起因していると考えています。

夫婦仲が悪い

夫婦仲が悪いというのは、たまに夫婦喧嘩するという話ではありません。たまに夫婦喧嘩するのは、刺激があって良いかもしれません。

そして、いつも仲が良いという夫婦がいても、それは

本当に仲が良いのかどうかわかりません。

〔たとえば〕10年も一緒にいるけど、一度も喧嘩しないとか、1度も言い争いもしていないというのは、仲が悪い証拠と考えています。そこには、お互いのあいだに“言い争えない”なにかが介在していると考えられます。

「夫婦仲が悪い」という意味には、〔離婚すればいいのに、なんで……〕と思えるくらい仲が悪い夫婦で、お互いに口も聞かない夫婦もいますけど、それでいて離婚しない夫婦の状況も入ります。

あるいは、仲がすごく悪くて、すでに夫婦関係が成り立っていない夫婦も入ります。

経済的に苦しい

経済的に苦しい、これは普通に働いていて、ややお金が足りないという話ではありません。

仕事がうまくいかないために収入が非常に少なく、家族の生活がとても苦しく、なにかしらの補助を受けているとかの状態です。

☞ いくつかの状況を記載しましたが、上記以外にもさまざま存在するでしょう。

そうしますと――、

〔たとえば〕天中殺で結婚した状態で、夫婦のあいだで子供が育って来たという場合は、家から早く出すことです。子供が社会人になったら直ぐにだすのです。そうしないと、夫婦関係か子供のどちらかに問題がでてきます。

これは夫婦二人がともに天中殺の場合と、夫婦の片方だけが天中殺の場合があります。

夫婦がおなじ天中殺をもつ場合を「どういつちゅうさつ同一中殺」といいます。

〔たとえば〕夫婦ともの子丑天中殺であれば「同一中殺」になります。「同一中殺」の二人が自分たちの天中殺である子丑天中殺のときに結婚した場合には、天中殺の影響が強くてます。

夫婦というのは、お互いに『気』を交換し合う関係、つまり、夫婦は一体になっていると考えています。それゆえに、夫婦の場合は、一方が天中殺になっていれば、必ず、相手もその影響を受けるのです。

〔たとえば〕天中殺で結婚して……夫が成功しているという場合、夫の運勢ではなくて、妻の運勢で成功しているということも起こります。これは多いですよ。政治家など多いです。妻のチカラで大臣になった人は

何人もいます。女性のチカラは偉大です。

それゆえに、悪いことばかりではなくて、良い事象も起ります。

☞ ここまで、天中殺の現象をすべて記載したわけではありませんが、天中殺で結婚をすると、記載した事象を含めてさまざまな現象をだすようになります。

〔たとえば〕天中殺で結婚した状態で、夫婦のあいだで子供が育って来たという場合は、家から早く出すことです。と書きましたように、子供が出て行くのなら、出て行かせるというやり方が無難です。

天中殺のときには、このような現象が出やすいので
〔物事を完成させよう〕〔成し遂げよう〕としないことです。それが無難です。

“天中殺の影響が見えていない”ということもあります。そのような場合には子供に出ます。

結婚生活が不幸だからといって、必ずしも離婚すれば良いとは限っていません。と申しますのは〔2人の間に子供ができなかった(いなかったとか)〕〔子供が出て

行ってしまった]とか、[子供が死んでしまった]とかの場合には、天中殺がもつ意味合いが相当に減少するのです。

子供がいない夫婦なら、それは不完全な状態の結婚として位置づけます。天中殺の現象は軽減されます。

あるいは、商社マンとかで、単身赴任の状態などが、長期間つくられている場合には、天中殺が減少されます。その意味では非常に助かっています。

それゆえに、必ず、現象がでるとは限りません。

⇒ 個々の運勢を観なくては……いつ天中殺の現象が出るのかということがわかりません。

一生……何も起こらなかつたという場合は、ほとんどないと思えますが、そのときは子供がやります。

そういう場合には、子供の運勢からでは、どうしても理解できないのです。

つまり、子供の宿命を観ただけでは絶対にわからないといえます。

つまり、親の宿命を観ないとわからないのです。

⇒ 算命学の占いは「集団を占う」占いです。

〔たとえば〕鑑定依頼者が何人もの資料（10人でも結構）を持ってきて、「これらは何人かの結婚相手の生年月日です。このなかで自分との相性が良い人、自分と運勢的にも一緒に将来を歩んで行ける人はどの人でしょうか？」と訊かれても答えをだすことができます。

「このなかで、社長としてどの人物が相応しいでしょうか？」とかでもおなじです。さまざまな依頼がありますが、集団ということでは、人数に関係なく占うことができます。

⇒ 鑑定のときに、鑑定依頼者の両親の宿命、兄弟の宿命、それらがわかれば、必ず、知る必要があります。そのためには、鑑定依頼者の話を良く聞かなくてははいけません。そうしないと、どのような生き方をしているのかわからないのです。必ずお訊きしてください。

鑑定する側の人物で、「訊くのが嫌……」という人もいますが、算命学の占いは、そのような程度の軽い話ではありませんので、依頼者の話には、必ず、耳を傾けてください。

ご不明な部分あれば、依頼者にお訊きしてください。

⇒ 天中殺が仕事におよぼす影響を考えます。

単純に言えば、「出世しない」ということも入りますし、出世することも当然あります。

出世すれば……その仕事を長く続けることが出来ない現象が起ってきます。

出世をしなければ、その仕事を長く続けられます。

しかし、本人に力量があっても出世しないという状況がつくられてしまうので、不満は蓄積するでしょう。でも、仕事・会社を辞めなくて済みます。

出世した場合には“辞める”という何らかの原因が起きます。

〔たとえば〕「本人が病気になって辞める」あるいは「不祥事に巻き込まれて辞める」とか、途中で会社を辞めなければならなくなる。一方的に解雇される。そのような状況が起きます。

⇒ 「天中殺のときに仕事にしても、会社に勤めても、それを成し遂げるという気持ちがないのなら、天中殺で始めても構いません」という話もあるにはあるのですが、これはお勧めではありません。

そうしますと、天中殺のときに始めるとかであれば、ちょっとパートタイムで働きに行く程度という話になります。

それでも天中殺の現象は出ますけど、大した影響はないといえます。しかし、“危険な仕事は駄目”です。たとえパートであっても、生命に危険を及ぼす内容の仕事は絶対にだめです。

天中殺は「夢のなかの出来事」です。

それゆえ、なにが起こるのかわからないからです。

☞「人生で一生やり続けて行かなければならない」
そういうものがあるわけです。

〔たとえば〕家を新築・改築して、そこに一生住もうと思うのなら、天中殺のときにやってはいけません。家を購入する場合は、契約したとき、つまり登記するということは自分の物（財産）になるわけです。

転居（引越し）は、自分がそこに住むということです。このどちらも駄目です。

「自分名義で登記するのではない」ということであれば住む人物だけに、天中殺の焦点を合わせれば良いわけです。

家族が5人いるという場合には、皆の名義で買うわけ

ではありませんから、実際に買う人の天中殺に関係します。実際に家を買う人が天中殺であればダメです。購入するときには、夫の名義で買うのか、夫婦の名義とかで買うわけです。〔夫の財産〕あるいは〔夫婦の財産〕になりますから、当然影響します。

買うことに、一切無関係であれば別です。

つまり〔家を購入する〕ということと、〔住む〕ということは別ですから、2つに分けて考えなければ駄目なのです。

引っ越しするときは、引っ越しする事実に関係しますから、当然そこに住む人物が関係することになります。ゆえに、引っ越し（転居）でも、天中殺で引っ越ししてしまったとしたら、天中殺が終わってから、もう一度引っ越せばよいですね。

つまり、天中殺のことを知らないで、天中殺で引っ越した事実が後日わかった場合に……また、慌^{あわ}ててしまい、まだ天中殺が終わっていないのに、また引っ越したら、天中殺で2度引っ越したことになりますから、禍を広げてしまうことになります。

そうしますと、2回目に引っ越した所で問題が大きくなります。

☞ 天中殺には……「20 年間の大運天中殺」

「陰陽 2 年間の年^{ねんてんちゅうさつ}天中殺」

「1 年に 2 ヶ月ある月^{つき}の天中殺」

「1 ヶ月のなかにも、天中殺の日^ひがあります」

人生に関わるような大きな物事であれば、「月の天中殺」も
「日の天中殺」も、あなどることはできません。

〔たとえば〕現在^{いま}まで、職場と寝るところがおなじであつたけど、狭いので住居だけ、ほかへ移したいという場合も、天中殺の考え方はおなじです。

☞ 天中殺であっても、そこに出る現象はさまざまです。「天中殺で引っ越しました」といっても、そこのでる現象はいろいろです。

それらの現象は、星を観ればわかるようになります。

〔たとえば〕その引越しで、子供に禍いとなつてでるとか、財産にでるとか、家を失うとか、それらのことも含まれます。

それは星を観ることで、わかるようになります。

星は「陰占＝干支」と「陽占＝人体図」で観ます。

⇒ 天中殺の過ごし方

天中殺のあいだの過ごし方ですが、天中殺というのは「まるで眠っているようだ」と書きました。

“運勢”も休むときがあるのです。

天中殺の期間は“運勢”も休む必要があります。

人間も十分に働くためには休養を取るとか、眠らなければなりません。

それゆえに、天中殺の期間は、『休む』という状態で過ごせばよいわけですね。休養状態がよいのです。

「運勢が寝ている」わけですから……能動的（陽）と受動的（陰）に分けたら、天中殺のあいだは受動的に生きたほうが良いのです。

天中殺のあいだは、受動的に生きたほうが良い

運勢は休養しているのに、本人は活発に動いてしまうということがあります。

天中殺の期間に活発に動けば動くほど、禍わざわいが大きくなって出てきます。拡大してしまうのです。

何故かといえば……運勢は眠っている状態であるのに、気持ちや肉体が走っているような状況ですから、運勢は十分に休養を取れないのです。

運勢は寝ている状態ですから、天中殺のときは通常の時より^{つか}疲れます。

精神も肉体も疲れますから、受け身で生きるのが最良の方法です。

そのほうが、^{わざわい}禍が起きても最小限にとどまります。

☞ “受け身” というのは「新しいことを始めない」という意味も含みます。

新しいことを

めるのは、積極的だと考えています。

このことは……非常に難しいのです。

不可能といえるかもしれませんが…… “受け身” に^{てっ}徹した生き方をしていれば、天中殺の^{わざわい}禍をまったくでないと考えています。

しかし、受け身で生きるというのは、実際にはとても難しいことであり、至難の技といえます。

☞ 積極的・能動的の意味について……。

〔たとえば〕会社に勤めているあいだには、天中殺の^{とし}年もまわって来ることもあるでしょう。

そのときに、会社から転勤命令が出たとします。

本人が自分は現在天中殺だということを知っていた

てとすれば、会社の命令に従うべきなのか……どうすべきなのでしょう。

皆様はどう思いますか……？

「天中殺は受身で過ごしなさい」と言っていますから、転勤命令を受けて構わないのです。

つまり、転勤することが受け身になります。

転勤命令が下りたのに、天中殺だから転勤を断ったとすれば、自分の意思をだしたことになります。それは積極的な行為だと考えます。

自分の意思を出すという意味の積極性です。

「天中殺だから、これもしない、あれもしない」というのも意思です。この場合は、自分の意思を出しているのかどうか——という話です。

自分の意思を出さないで、^{いま}現在までの状況、それまでの状態を維持することが、1番の受け身の姿であると考えています。

新しいことを始めないで、いままでどおりの生活が受け身の姿です。

しかし、実際の話として……天中殺に入ると、仕事のこと、あるいは対人関係とかで面白くない状況が出てきて、会社を辞めたくなくなるとか、そのような気持ちに

^{おちい} 陥ることもあるでしょう。

そのときに仕事を辞めてしまうと、現在までの状況・状態を維持していることにはならないのです。

自分の意思で仕事を辞めるのは、現在までの状態を維持するのではなくて能動的と考えます。

天中殺で「新しい事を始めてはダメです」といいました。

自分の意思で「辞める」ということは、新しいことを始めることになるのです。

新しい事を始めたら「禍になる」と考えています。

☞ そこで、父親が築いた大塚家具はどうでしょう。長女の久美子さんの代で、大塚家具破綻に追い込まれました。 ➡

✽ 大塚 勝久 1843-4-27

大運は 8 歳運の逆まわり

	乙	丙	癸		龍高星	天印星	8 乙卯
子	卯	辰	未	貫索星	司祿星	祿存星	18 甲寅
丑		乙	丁	天祿星	調舒星	天南星	28 癸丑
		癸	乙				38 壬子
	乙	戊	己				48 辛亥
							58 庚戌
							68 己酉

大運天中殺

✽ 大塚久美子 1968-2-26

大運は 8 歳運の逆まわり

	乙	甲	戊		鳳閣星	天胡星	8 癸丑
戌	寅	寅	申	龍高星	龍高星	祿存星	18 壬子
亥	戊	戊	戊	天貴星	龍高星	天貴星	28 辛亥
	丙	丙	壬				38 庚戌
	甲	甲	庚				48 己酉
							58 戊申
							68 丁未

大運天中殺

大塚家具の衰退には、創業者の宿命、久美子さんの宿命が大きく関わっていますが、ここでは天中殺に焦点を絞って大まかに記述します。そのひとつに天中殺で事業が成功するという事象があります。しかし反作用は必ずでるのです。

- ・大塚家具・創業者の大塚勝久さんは父親ですが、〔28 歳〕
ら 20 年間は大運天中殺がまわっています。
- ・長女の久美子さんの〔28 歳～48 歳〕まで大運天中殺です。

1994「甲戌」久美子が大塚家具入社〔勝久 51 歳〕〔久美子 26 歳〕

久美子さんは大運天中殺で入社しています。

2009「己丑」〔勝久 66 歳〕〔久美子 41 歳〕のときに、久美子さんが
社長に就任しましたが、このときも大運天中殺中です。

2015「乙未」 3 月 27 日の株主総会で久美子が勝利して社長に再任
される。〔勝久 71 歳〕〔久美子 47 歳〕

父親の勝久さんは、大運天中殺に入る前の〔26 歳〕のときに
会社を創業し、勝久さんの宿命に即した高級路線を掲げ、
大運天中殺に入って業績を大きく伸ばし、〔37 歳〕のときに
上場しています。天中殺は飛躍的に業績が伸びるというこ
とは起こります。しかし、その反作用は必ずやって来ます。

1994「甲戌」の^{とし}年は長女・久美子さん天中殺の年です。

その年に父の会社に入社していますから、親の跡を継いだ
わけです。久美子さんが入社したのも、社長に就任したの
も大運天中殺のときです。

会社を受け継ぐ、社長になるということは、当然の職務と

して業績を伸ばす責務を背負うことなるわけです。

それを期待して、父親が久美子さんを社長に推したわけ
です。しかし、彼女のすべての出発点为天中殺です。

「天中殺で始めたことをまっとうすることはできない」と
いうのが算命学の定法です。

久美子さんでいえば、[業績を伸ばすことはできない]とか
[社長としてとどまることはできない]そのような状況が
起こります。

それゆえに、天中殺で自分の一生を左右するような物事を
始めてはいけないわけです。

天中殺は受け身で過ごすことです。

これが難しいのです。

☞ 20年間の^{たいうんてんちゆうさつ}大運天中殺について……。

20年間の大運天中殺があります。

〔たとえば〕15歳から20年間の大運天中殺に入りましたということは、その期間中に結婚や仕事という大きな問題に引っ掛かります。

では……どうしたら良いのかということになります。

❖ 結婚でいえば、積極的な結婚をしないことです。自分からその人と結婚したいというよりも、相手から求められる結婚のほうがよいのです。それは見合いでも、恋愛でもおなじです。恋愛でも、相手から好かれて結婚するほうが無難です。しかし、天中殺で結婚した事実を変えることはできません。

❖ 仕事の場合は、変えてもよいです。つまり、天中殺がわかっていれば、その期間中は余り好きでない仕事をすればよいわけです。つまり、自分の一生を左右しない腰掛け仕事です。そして、天中殺が終わってから、新しい職業に就くほうがやり甲斐も出てきて充実します。

⇒ 天中殺の格言

天中殺の格言は2つあります。

① 昨日とおなじことをしなさい。

受け身ということは、新しいことを始めないことです。ゆえに、昨日とおなじこと、いままでとおなじ状態を維持することです。

天中殺に入って、急におとなしくすることも駄目です。

「今まで張り切り過ぎたから、今日からおとなしくする」というのは、積極的で禍になります。

「今まで働き過ぎたので、天中殺の禍が出そうだから、働くのを止める」これも問題です。

その逆もありますね……「現在まで冴えなかったから、天中殺で辞める」これも駄目です。

② 天中殺の期間中は勉強しなさい。

〔天中殺は眠っているようなもの〕

休むというのは、エネルギーを補充しているのです。その意味で……勉強するということは、知恵を補充していることになります。

学問・勉強は受け入れることです。

それゆえに、充電期間中の勉強はとてもよいことだと考えています。勉強は良いのです。

学んで身に付けること自体は、何ら禍にはなりません。

しかし、学んだものを……出すときが問題です。

勉強はいろいろあります。

会社内での技術の習得もあるでしょう。

天中殺で勉強したものは禍にはなりません。

しかし、それを天中殺の間に出してはいけません。

学んで習得したことを出すのは、天中殺が終わってからです。

会社内での勉強、知識や技術の習得、お稽古事も良いし、スポーツの練習に打ち込むのも良いのです。

自分に入って来るものは、何でも良いのです。

天中殺の意味合い（受け身）に即^{そく}しているからです。

☞ 天中殺の本当の意味がわかってくると、一つ一つに対しての判断ができます。

〔たとえば〕天中殺で大学に入学した人は大勢います。天中殺で入学しても構いません。なぜなら、天中殺で勉強したことは、身につきやすいです。

ただし、その大学に入学したことは、成し遂げられないのです。

〔たとえば〕その大学に残って教授になることはできません。その学部の研究に関わることもできません。その研究に携たずさわっても結構ですが、自分のおもうように成果は上がらないでしょう。

医学部に入ったら、医師資格は取るのは構いません。医師のなっても構いませんが、さまざまな問題が起こりやすいのです。(医療ミスとか……) そうなると、結果的に医師を全うできないわけです。

それゆえに、医者の資格をもちながら……作家になるとかなどの生き方のほうが良いのです。

経済学なら経済分野に進まないほうが良いのです。

天中殺で運転免許を取得しました。

職業ドライバーにならないほうが懸命です。

交通事故などに関わってくるからです。

☞ 天中殺で物事を止めたときはどうなるの……？

そのものとスッパリと縁えんが切れます。

離婚でも仕事でも、スッパリと縁が切れます。

天中殺での再婚はやめたほうがよいです。

仕事でもおなじ分野の仕事に従事できないと思って

ください。

おなじ分野はどうしても天中殺の影響が出てきます。
その影響の程度は大小さまざまです。

ここまで「天中殺がまわって来たら……」ということで記述しましたが、一番の注意点は大きな物事は始めないことです。

① 天中殺で大きなことは始めない。

すでに記述しましたように……。

❖ 「結婚する」「家を建て」「一生の仕事」など……
これらは成し遂げないと困ります。
それゆえに、始めないことです。

❖ 天中殺のあいだは受け身で過ごすことです。
自ら進んで動かないということです。
気楽に楽しめるような生き方を、できるだけ心掛けることです。

❖ 勉強することです。

お稽古事、学習、技術面を身に付けるとか、スポーツの練習をするとかは大いに結構です。

⇒ 算命学の占いは、自分のほうから、「占ってあげますよ……」という占いではないのです。

算命学の占いは、相手から頼まれてする占いです。なぜかといえ、占いの影響が大き過ぎるためと考えています。

〔たとえば〕「天中殺はいつでしょう？」と訊かれて、それに応えるのはよいのです。

その人物の大運天中殺（20年間）が〔26歳～46歳〕までとわかった場合、**46歳になる誕生日の前日まで**が大運天中殺になります。

〔7月20日〕生まれなら、〔7月19日〕までですよ。

このことはすでに学んだ事柄です。しかし、自分がまだ知らないことを質問された場合でも、答えたくなるのが人間です。それはダメなのです。

⇒ 算命学の勉強は、頭から全部を暗記するというようなやり方ではないほうが良いのです。

〔これはこうだ……〕という覚え方をしますと、あとあと融通が利かなくなります。

算命学に引き算はないのですが、必ず〔1+1=2〕とはならないのです。それゆえに〔1+1=2〕というように覚えてしまうと、固定観念的になってしまう恐れがあります。

⇒ 個人の勉強の仕方・方法、進め方もありますので
言い切ることはできませんが……。

〔たとえば〕貫索星・石門星は何本能で、それらの質
の特徴をしっかりと覚えていけばよいでしょう。

星の特徴から類推^{るいすい}して、段階を踏んで覚えていくのも
よいでしょう。

参照・類推〔類似点に基づき、ほかのことを推しはかること〕

天中殺ということでは、天中殺は不自然になる状態、
不融合ですから、〔それはどのような現象なのか……〕
というふうにして、覚えてゆくのもよいでしょう。

【初年】 5 5 回目【天中殺(1)】序論 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 5 6 回目【天中殺論(2)】です。